

トップ インタビュー

一吉証券の情報システム活用と経営戦略 —福島常務に聞く—

一吉証券殿は、その基幹業務システムとして野村総合研究所のSTAR-Ⅲを活用されており大胆な経営革新に取り組んでいらっしゃる。金融機関としてはきわめて先進的に、全支店にパソコンをオンライン端末として導入された。今回は、情報システムの活用と経営の戦略について伺いました。



話し手 福島 尚昌氏
一吉証券(株)
常務取締役

一御社の経営方針と情報システム活用についてお話をください。

当社の経営方針は、まず第1にお客様第一ということです。第2にどのような環境でも黒字収益の体質を確立するというところで、これが情報システム活用との関連で大変重要なことです。第3に、証券会社としてどの分野に営業の焦点を絞り込むかということで我々としては店頭株、アジアに強い専門店いわば高級ブティックをめざしています。このような経営目標を達成するためには社内の情報システムインフラをきちんとしたものにし、製造・販売・情報の一体化を行う必要があります。その手段と

して我々はSTAR-Ⅲを導入しているわけです。

一基幹業務をアウトソーシングされた理由は、技術力を持った専門企業に依頼した方がこのような経営方針をより早く実現できると考えられたからですね。

ところで、大量のパーソナルコンピュータが営業店に導入されたわけですが、その使い勝手と教育の問題についてお話し下さい。

新しい端末は1台で複数の画面が扱え、EUC、OA環境も使える点など大変利便性のよいシステムだと思います。電子メールの活用については、社内各部門からの若手を中心にワーキング・グループを作って、どのように使うべきか2カ月間真剣に議論し準備をしてもらいました。業務の「改善」ではなく「改革」をめざしているのです。情報化には役員自らも率先して取り組んでいます。最近、役員全員、電子手帳を買われましたよ。もちろん自分の金で。また、インターネットによる情報提供も開始しました。

一情報技術の活用に関してトップの意識が大変進んでいらっしゃることに感銘を受けました。ところでシステムの仕様決定にあたってどのようにユーザーズを反映されましたか。

支店分析のできるシステムをお願いしました。支店長が、商品に対するお客様のニーズを自ら判断できなくてははいけません。また開発側の野村総研さんから

専門家2人に1年間常駐していただき、パソコンで作ったプロトタイプを早期に検証できたことも大変よかったと思っています。

一これからの課題、戦略について伺います。

事務処理については、ワークフローの導入やそれによる大胆なアウトソーシングをも視野に入れてさらなる合理化を検討しています。また超並列コンピュータを用いた営業情報の分析とマーケティングの試みもスタートしています。社内の情報インフラの整備は言葉では簡単ですがやはり大変な努力のいることです。しかしこれができてはじ



聞き手 篠原 健
情報処理学会誌編集委員

めて、会社はこれからのマルチメディアの時代にでてくる新しい業務や取引の形態に対応する事ができるのです。

本日はどうもありがとうございました。

(平成7年12月実施)